

NHK連続テレビ小説「なつぞら」の舞台 北海道・十勝地方への視察を実施しました

- 気仙沼市では、昨年前期に放送されたNHK連続テレビ小説「なつぞら」の舞台となった北海道十勝地方への視察を行いました。視察には気仙沼市と市内の観光・物産関係団体の関係者4団体7名に加え、NHK仙台放送局、登米市、宮城県観光課の担当者が参加しました。
- 十勝では「連続テレビ小説「なつぞら」応援推進協議会」の担当者の案内のもと、関係者との懇談を行ったほか、実際のロケ地やセットが公開されている場所を見学し、地元の協力態勢や「なつぞら」の活用方法について学びました。
- 「なつぞら」を地域活性化に繋げるべく熱い思いで取り組んだ関係者の熱量を身近に感じ、視察後は参加者でさっそく振り返りの議論を行い意見をまとめました。これを関係者で共有し実際の施策に反映させるほか、今後は十勝の関係者を本市に招いての勉強会の開催も検討しています。

●日程 令和2年8月6日（木）～9日（日）の4日間

●参加者 気仙沼市（4名）気仙沼観光コンベンション協会（1名）、気仙沼商工会議所（1名）、気仙沼地域戦略（1名）

●視察先

<懇談>連続テレビ小説「なつぞら」応援推進協議会関係者

帯広市、帯広観光コンベンション協会、十勝観光連盟、帯広商工会議所

<主な訪問先>・真鍋庭園（ロケセットの活用例、協力者である真鍋憲太郎社長と懇談）

・NHK帯広放送局（NHKの広報事例視察、メディア部久地岡健一副部長らと懇談）

・清水円山展望台（ロケ地が公開不能の場合の事例視察、清水町高橋英二商工観光課長の案内）

●参加者の意見集約のうち、主なもの

・「なつぞら」を成功させ、地域を活性化しようとする関係者の熱い思いに感動した。

・ドラマの制作主体であるNHKとの信頼関係の構築が最重要。十勝は最大限の収録支援を行い信頼を勝ち得、本来は難しいロケセットの譲渡などにもつながった。

・一方でその成果を地域活性化に十分活かすきれたかという点においては、もったいなさを感じた。何のために収録支援を行い、ドラマ成功の先にある本市としての成功とは何なのか。その成功イメージの共有が必要なため、核となる理念・キーコンセプトの打ち出しが大切。

<以下は大変参考になったアドバイス>

・視聴率20%といっても朝ドラの視聴率は半沢直樹のそれとは違う。半沢は1人で見るが、朝ドラは家族で見る方が多く、視聴率の裏にいる実数はけた違いに多いことが実感できる。

・朝ドラを契機とした観光客は、朝ドラのファン・出演俳優のファンもいれば、ストーリーにはまった人、単に十勝が話題になっているから来たと、それぞれ嗜好が違う。

・朝ドラを使った地域活性化では「やらないことが一番の悪」。放送期間が限られ、放送終了と同時にNHKから制限され出来なくなることも多い。とにかく時間が限られるため、悩んでいるならすぐにやったほうが良い。時間が非常に大切。